

JCE6プロジェクト一覧表

テーマ 関連性	分野	プロジェクト名	説明
福音	福音	P1 聖書信仰の成熟を求めて	昨今の福音主義神学界における新たな取り組みや教会を取り巻く今日的課題も踏まえ、「福音」および「福音のもたらすもの」への理解を深め、危機の時代にあつて福音派教会が一致して前進するべく、確かな聖書信仰と真の福音理解を再構築する。
世界	多元化社会	P2 日本社会と教会：地域に開かれた教会に向けて	日本の教会が地域社会から孤立しているという課題と向き合いつつ、地域に開かれた教会の実際的取り組みから具体的に学び、宣教学的な考察を踏まえて、そのあり方を「モデル」として、提示していきたい。
	国家	P3 教会と「国家」—戦後70年に際して、キリストの平和をつくり出す者となるために	この国にあつて、どのようにキリストによる平和を實踐していけばいいのか。歴史を振り返り、み言葉に基づくキリスト教平和論を模索し、各地に社会委員会が立ち上がるための一助となり、将来の福音宣教の土台を築く。
	環境	P4 持続可能な社会の構築	現代社会における大量生産、大量消費、大量廃棄に伴う人の生き方は限界になり、様々な地球環境問題等を引き起こし、人と被造物の生存基盤そのものを損なっています。この事実をわかりやすく示し、聖書にもとづく人のライフスタイル、持続可能な社会の構築を明らかにし、具体的にキリスト者として生き、福音宣教に寄与します。
	災害	P5 災害対応を通して仕える教会	災害支援を通して私たち教会はどのように仕えることが出来るでしょうか。災害時にキリストの愛の業を行う人材を養成し、キリストの体として協力して奉仕を行う教会ネットワークを構築することで、私たちは良い備えをし仕えることが出来ます。
	家族と高齢化	P6 ファミリーミニストリー	時代とともに変化してゆく「家族」に教会はどのように向き合えば良いのでしょうか。結婚、夫婦、子育て、介護に焦点を絞り、「神の家族」としての教会の取り組みを探り、地域社会への宣教活動が実践されることを目指します。
	グローバリゼーション	P7 ディアスポラ宣教協力	「ディアスポラ」とは、自分が生まれ育てられた国を離れ異国に住んでいる人々(本来は世界に散らされた民になったユダヤ人)を指します。この歴史を踏まえつつ、グローバルな視点から宣教協力の在り方を模索します。
	可能性	ビジネス	P8 ビジネス宣教協力の次世代構想
開拓伝道		P9 教会開拓、教会増殖	日本中に福音を満たしていくために、すべての市町村区に、主の御体である教会を生み出すことを目指します。そのために、ビジョンを共有し、どこに、どのように教会を生み出していくのか、共に考え、協力していく場としたいと願っています。
地方伝道・共生		P10 痛みを担い合う教会	東日本大震災の後、教会は悲しみに打ちひしがれたり、閉ざされてしまった人々や地域をつないだり、結び合わせたりする働きを継続してきました。この経験は今後、私たちのキリスト者としてのあり方に、またこの国の宣教に、どのように生かされ、用いられていくでしょうか。
青年		P11 青年宣教	次世代の育成と、青年による青年宣教が諸教会、地域、教派、教団、JEAなどキリスト教界全体のあらゆるレベルで着実に進んでいくために、教会とパラチャーチを両輪としたネットワークを強化し、だれもが参加できる環境づくりをいっしょに進めましょう。
子ども		P12 子ども	日本人は、何歳で福音を聞き、何歳の時、どういうきっかけで主を信じるのでしょうか。日本の教会には、子どもたちが何人位いて、どんなキッズプログラムがあるのでしょうか。リサーチ結果をベースに、キッズミニストリーの将来について考えましょう。
総合		P13 日本宣教170▶200	ベッテルハイムの琉球伝道から170年の日本宣教に関するデータブックを出版します。特に最近の30年に焦点をあて、これからの30年を展望するための、誰しもが知りたい情報を集めて伝道会議の基本資料とします。
		P14 宣教協力とそのインフラ造り	前回伝道会議のテーマは「危機の時代の宣教協力」でした。宣教協力の必要性はさらに高まっています。JEAの働きを中心として恒常的に機能する宣教協力のインフラ整備に取り組みます。
		P15 教会の誠実さへの変革	私たちの教会形成は、キリストの教会を建て上げることが目的です。この世的な成功を求める心や、性・金銭・権力に関する逸脱から、どのように教会は守られていくことができるのか。謙遜と誠実と質素へ教会を変革し続けるために、日本の文脈において何が鍵であるかを明らかにし、健全な教会形成に寄与します。